

東京都市大 女性教員を拡充

3学科で1人目採用

モデル確立へ
プログラム
付属校に出前授業も

と共有
など大工
浦工大な
ノウハウ共

東京都市大学は私立理工系大学における女性教員増のモデル確立に向けたプログラムを始めた。理工系7学科で女性教員がゼロの状況を変えるべく、まず2010年4月に3学科で女性1人目を採用する。また一貫校の強みを生かし付属の中学・高校で、理工系女子を増やすことを狙った出前授業を実施する。これらのノウハウ共有のため至蘭工業大学、東京電機大学、芝浦工業大学とのネットワークづくりに着手した。

東京都市大学は在学生約7000人の中規模校で16学科あるが、理工系14学科の半分は女性教員がいない。そこで「プラットフォームプロジェクト」と名付け、まず女性ゼロの学科をなくし、最終的に全学科で女性を1人ずつ増やすことにした。

また、付属校に出前授業に出向き、中高教員が苦手とする実験指導をする「科学はともだちプロジェクト」で、とくに女子学生の理解を深め理工系進学率増を図る。ほかに女性研究者の研究に絞った発表会や、ロールモデルとなるケースの紹介

などで、学内女性間の交流も深める。

工学系の大学女性教員の比率は日本全体で5・9%だが、東京都市大は4・7%で、私立大学は

一般に国立大より低い。そこで同大のノウハウを他の工学系の私立大や国立大で共有すべく、芝浦工大など各校で窓口担当者を決めてもらった。

東京都市大は09年度に旧武蔵工業大学と、旧東横学園女子短期大学が統合して発足した。文部科学省・科学技術振興調整費「女性研究者支援システム改革」事業には09年度に採択された。

同事業はこれまで45大学が採択され、うち私立大は10校、私立理工系は東京都市大のみとなっている。